

同じであると思うわけでございまして、こういう人材が、なぜ我が国の場合には中央政府に活用されていないのかというのが、つくづく私、ドイツにおりまして痛感をしたような次第でございまして、一言で言いますと、もったいないという点もございまして、もっと知事なり市長さんなりが、国の内閣にどんどん入っていくということになりますと、地方重視の国政も行われるのではないかというふうにも期待できるのではなからうかと思うわけでございます。

まず、アデナウアー。戦後、非常に高齢だったわけでございますけれども、引っぱり出されまして、そして連合国との間をうまくやって、ドイツを今日あらしめたということで尊敬をされておるわけでございます。一九四九年にドイツ連邦共和国ができましたときの初代首相でございまして、その前に、憲法制定会議の議長を務めて首相になったわけでございます。彼は戦前、一九一七年から三三年、したがしまして、十六年ぐらいで長いんですが、ケルンの大聖堂というのをご存じだと思いますが、ケルンの市長をされております。それから戦後です、戦前と戦後。特に皆さん、ケルンへ行かれますと、非常に大都会なんです、緑が多い。ケルンのまちの周りがぐーっと森で囲まれておる。非常にきれいな——ドイツの都市はそういうところが多いですけれども——目立つ緑の多い都市でございまして。戦後の窮乏時代に薪がなくなつた。それで、ケルンの森を切れということになつたのをケルンの市長が、いや、それはいかぬと、連合軍とかけ合つてケルンの森を守る。育つのに何十年、何百年かかる森を切つたらいかぬということで、どこかから石炭でも手に入れたのか、詳しいことはわかりませんが、ドイツのケルンの森を守つたということで大変有名でございまして、そういう逸話が残っております。

それから、二代目がエアハルトさんでございまして、これはアデナウアーの内閣で経済大臣をやつておったんですが、一九六三年から六六年まで三年間、連邦の首相を務めています。この方はバイエルン州の経済大臣、先ほど申し上げました南のババリア、ミュンヘンのありますところの経済大臣で、日本の県で言いますと経済部長